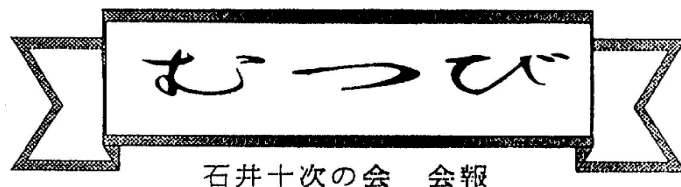


2026 年
(令和 8 年)
9 月 9 日



349 号

石井十次少年団が結成されました！

むっぴ編集委員

石川 正樹

令和 7 年 10 月 30 日、「石井十次少年団」が結成されました。石井十次顕彰会が主管し、高鍋町教育委員会がサポートしています。

団員の対象を 5 歳から中学生までとして募集したところ、14 人（男子 5、女子 9）の入団者がありました。年齢は小学 4 年 3 人、3 年 4 人、2 年 2 人、1 年 3 人、6 歳 2 人です。団員募集は続いているので希望者は入団できます。

設立趣意書によれば「目的：石井十次少年団は、石井十次児童劇を通じて、石井十次の功績や生き方を学び、その学びを演劇活動で発表します。また、演劇活動に加え、郷土の偉人や地域の歴史・文化・自然について学ぶ体験活動を通じて理解を深めます。これらの体験を保護者と共に行うことで、児童と保護者が共に学び、地域への誇りと愛着を育みます。さらに、子どもたちは自らの成長に自信を持ち、将来地域を支える人材として成長することを目指します」とあります。

十次児童劇を演じてきたのは、十次の生家の近くにある高鍋町立西小学校の児童たちでした。「縄の帯」の演目を 5・6 年生が中心になって、石井十次顕彰会が主催する「石井十次顕彰のつどい」などの行事で上演しました。しかしコロナ禍

でその活動が途絶え、さらに少子化による児童数の減少などにより児童劇復活の道は閉ざされたかにみえました。しかしチャンスが訪れます。令和6年11月に「高鍋町歴史シンポジウム」が「第32回石井十次顕彰のつどい」を兼ねて開催されました。ここで新しいシナリオによる「児童劇・石井十次ものがたり」を西小・6年の児童が上演する機会を与えられ、熱演して好評を博しました。

これを契機として、石井十次顕彰会が中心となり標記の十次少年団の発足に至りました。児童劇のシナリオはプロの手に委ね、劇の内容を幅広くし、現代的感覚で十次の生き方を表現します。プロによる演劇指導も定期的に受ける予定です。

少年団はそんな新しい石井十次児童劇を学びます。注目したいのは、少年団の活動は児童劇にとどまらないことです。演劇活動に加え、郷土の偉人や地域の歴史・文化・自然について学ぶ体験活動もあります。演劇に目を向けながら、教養を高めることも狙い、付き添いの保護者にも共に学んでもらおうとしています。

5月には高鍋湿原で自然を学び、6月には高鍋城址を探訪して高鍋の歴史を勉強しました。7月には海岸でウミガメの産卵場所を見学。8月・9月は劇に慣れる練習をしたのち、10月からいよいよ配役を決めて役作りが始まります。

「石井十次の会」の会員の方々にも興味をもっていただき、子どもさんやお孫さんにも少年団への加入を勧めていただければ幸いです。（本拠地は高鍋町なので、高鍋町に通えることが条件になります）

労作教育の素晴らしさに感動

石井十次の会宮崎支部 丸山 雅照

「石井十次の会」入会は、宮崎支部長さんから声をかけられたのがきっかけでした。

支部長さんに友愛社見学をお願いし、事務局の方から、石井十次先生の偉業について、懇切丁寧な説明と各施設の案内をして頂き、令和6年10月に即入会しました。

児嶋草次郎理事長はじめ友愛社の関係者、十次の会会員の方々との新たな出会いがあり、友愛社の行事を通じて、子どもたちの元気な様子に触れることが私の楽しみとなりました。

宮崎支部長さんの声掛けで会員となれたことに感謝し、このご縁を大切にしていきたいです。

友愛社の行事(鯉のぼり揚げ・感謝祭・クリスマス会・卒業を祝う会など)に参加を重ねる毎に、子どもたちの表情や明るい笑顔、そして上級生が下級生(幼児組)を優しくリードしている様子に驚き、どのような養育がなされているんだろうと、興味をいただきました。

家庭の諸々の事情で、幼くして親元を離れ友愛社に来て、規則ある集団生活を高校卒業まで過ごし、悩み苦勞しながら逞しく成長していく子どもたちは児嶋理事長はじめ職員の皆様の日々の親身なる愛情溢れる養育によるものだろうと想像しております。

私が素晴らしい教育だなと思いましたが、外での労作教育です。

子どもたちは、集団生活の教育の一環として、季節の野菜づくりや真夏のハウス内での草取り、米作り(苗づくり・田植え・稲刈り・脱穀)などの手作業(労作)を、最初はグチや不平が多く、悪戦苦闘しながらも理事長や先生方からの指導で、辛抱強く頑張っています。労作での思いを綴った労作作文には、忍耐力・集中力・精神力・自己コントロール力などが身についたと実感し、収穫した野菜や米がとても美味しい、好き嫌いをしなくなった、当初マイナスの考えをプラス思考にできて自信がついた、将来役立つよう卒業するまで頑張ります、などとあります。私は、苦勞しながら頑張っている様子が目に浮かび、涙を堪えながら読みました。

色んな事情を抱えて友愛社に来た子どもたちは、労作教育を通じて、成長していることを自覚し、人間力を高めています。私は、労作教育の素晴らしさに感動し、子どもたちの秘めた能力や才能を引き出す最高の教育だろうと思います。

児嶋理事長は「ゆうあい通信」で「石井十次にとって、この地が労作教育の原点であると思っています。」「労作教育が自然と共生する感性を養い、人間として生きていくための様々な知恵・自能力を獲得していきます。」と述べておられます。

石井十次先生の教育理念が、友愛社の基本方針「自然主義」「家族主義」「友愛主義」「自律主義」として実践されている労作教育です。児嶋理事長の「運命を変える」の指導に啓発された子供たちは、労作が自分の「運命を変える」に有意義であると思って、懸命な努力の結果が、進学率60%の素晴らしい成果だろうと思います。

子どもたちが身に着けた「運命を変える」力を、社会人になって発揮して、幸せな人生を送ってくれることを心から願っています。

届かない子どもの声

私は数年前から、子どもの声を聴くボランティアをしています。「親に心配をかけたくない」「忙しそうだから言えない」「怒らせたくない」。本来いちばん甘えてよいはずの大人に、子どもが遠慮しているのです。

もちろん、子どもが大人の様子を見たり、相手を思いやったりすることは、成長の中で自然なことでもあります。しかし、自分の苦しさをのみ込み、助けを求めることさえためらう子どもたちの声を聴いていると、私はそこに、親子関係のあり方の変化を感じずにはられません。

子どもたちは、そんな切ない思いを抱えながら、懸命に SOS を発しています。遠慮することが悪いのではありません。でも、SOS まで遠慮しなくていい。子どもにとって安心して頼れる大人の存在がどれほど重要か。私たち大人一人ひとりが考え、安心して甘えられる大人でありたいと思います。

編集委員 福島博子

十次の会 会員研修 参加者募集 *会員ならどなたでも参加できます

- *日 時 10月19日(月) 8:30(友愛園出発)~16:00(帰園)
- *研修先 石井記念神武の家(高原町) 狭野神社にも参拝します
- *研修内容 施設見学、会員交流(湯之元温泉にて昼食、会員交流)
- *参加費 1000円
- *募集人数 20名(申し込み順)

【申込先】 十次の会事務局 0983-32-4612(月曜日は休館のため不在です)

☆受付期間 9月15日~30日

★新会員のご紹介(敬称略) 【東京都】PUMPMAN株式会社 (株)テクノアップ・ライズ

【宮崎市】横田光代【新富町】福岡佐知子 【高鍋町】増田幸子 【門川町】黒木富代

★ご寄付をいただきました(敬称略) 【名古屋市】田爪光信 【宮崎市】清水昭男

☆10月通信発送作業は10月7日(水)8日(木) 両日ともに9:00からです。

*ここまでの掲載者は編集等の都合により8月20日までのものとしています。

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

㊟ 884-0102 宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1
社会福祉法人 石井記念友愛社後援会
石井十次の会
TEL/FAX 0983-32-4612
メール vuuaisva-ivuuinokai@kiio.jp

編集後記

- 石井十次少年団が結成されました。演劇や学習を通して十次先生の生き方や郷土の歴史に触れることは、子どもたちがふるさとへの誇りと愛着を育む貴重な機会になることでしょう。十次先生から受け継がれてきた思いが、子どもたちへ、そしてまた次の世代へとつながっていくことを嬉しく思います。 編集委員 福島博子